

社会人クラブ廃部

スポーツ振興に貢献するはずが
結果、泥を塗ってしまう企業の体質

業績不振と総務部廃部...
価値も意義も同じはずだ。



現在リーグ上位に位置する男子バスケの名門、いすゞ自動車は今季限りの休部を発表した。理由は不況による本社の業績不振。関係者によると、銀行から数百億円の融資を受ける条件として、年間運営費が5億円近くにもなるクラブの休部が盛り込まれていたようだ。融資をする立場にある銀行の言い分はもっともだ。また、高橋尚子が所属する女子陸上部で有名な積水化学も男子陸上部を休部するとか。一方、今年女子駅伝で素晴らしい成績を残した京都チームは、ワコール、京セラ、グローバリー、ノーリツなどの実業団選手が活躍。京都における社会人スポーツの充実ぶりがクローズアップされた。

企業は業績が良いとこぞって「広告塔」「メセナ」の名のもとに創部する。しかし、ひとたび業績不振になれば大会での成績を無視して廃部や休部の決断を下してしまう。会社は公器、みんなのものだ。利潤を追求すると同時に社会に貢献するのが企業ならば、業績不振のあおりを受けないクラブの運営方法を考えるからスポーツに手を付け、全社員が安心して活躍できる場所にすべし。

忌むべき建設？
マンション建設に続く建築論争
京都市内の葬祭場建設問題が浮上

中京区の某マンションをはじめ、依然として京都市内にマンション建設が続いている。周辺住民とのすれ違いも、未だ各地で勃発中。また、これに似た問題で、京都市内の葬祭場の建設問題も浮上している。建設予定地の周辺住民は、日常生活の場で葬儀を頻繁に目にする機会が多くなるのを忌んで、日曜祭りの場でも葬儀を頻繁に目にすることを忌んで、誰かが経験するセレモニーに関する施設の建設に反対するのはどうだろうか？ マンション建設については景気の先行き不安や、不景気を理由とした転勤の可能性を考えたマンション買い控えにも拍車がかかっており、こぞって高層マンションを建てる必要がないように思う。しかし、葬祭場の需要は明らかに高まっている。「葬祭場は必要なものだけど、ウチの近所だけはイヤ」というエゴを強く感じてしまうのだが？

古き良き
日本の中流家庭の
こんなシーンも
少なくなった。



御池通にイルミネーションが
できたら...
派手な車は目立たなくなる、
居なくなるかな...?



光る京都

行政が取り組み始めた光の演出
センスのよいイルミネーションを！

京都の夜の街並みが変わろうとしている。最近では二条城、さらに寺社仏閣では早くから観光シーズンのライトアップに取り組んできたが、これからは街並みでもイルミネーションによる演出が行なわれる。まず、京都市は京都観光の「夜の風物詩」づくりを狙って、あんどんや花を社寺周辺の街路に並べて京情緒を演出する「京都・花灯路」を開催することを発表。具体的な計画はまだ煮詰まっていないが、東山区円山公園周辺などの候補地の中から開催地が選ばれるようだ。実施時期は観光客数が落ち込む時期に2週間ほど。開催後は行灯が地域のイベントに貸し出されるとか。どんなイルミネーションになるか分からないが、とにかくセンスよく、ね。

一方、御池通の歩道にもイルミネーションを施す計画もある。これは通年のもので、夜になると暗くて殺風景な御池通も気分よく歩くことができるようになることだろう。筆者としては、さらに市役所前の広場をオープンカフェにしてくれたら最高なんだけど...



文◎大塚 祐希

1968年大阪府八尾市生まれ。昔ながらの京都の民家を仕事場とするライオン系「大塚祐希事務所」の暫定CEO。「スポーツが好きだが自分ではやらない」「車が好きだが免許を持っていない」「酒が好きだが外で飲むと酔ってしまふ」という数々のジレンマと戦いつつ、今日も愛機G4を駆る。



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/ryugochi>